

思春期発達障害者の包括的支援の研究

—親子関係タイプ別の親支援の構築に焦点化して—

柳楽明子 引土達雄 辻井弘美

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター

<要 旨>

知的障害を伴わない思春期発達障害者について、不適応の予防や適応力向上を促すための具体的支援の検討は十分に行われているとはいえない。本研究では思春期発達障害者の包括的支援としての親支援に焦点化し、当事者が抱える問題や支援ニーズの調査および効果的な親支援のあり方の探索的検討を目的として、思春期発達障害者本人とその親に調査を行った。

調査結果から、思春期発達障害者では知的障害を伴わなくとも身辺自立や仲間関係の構築といった領域において適応上の困難が大きいことが示唆され、親にとっても思春期の子離れの難しさが生じやすいと考えられた。また思春期発達障害者の親子関係について、特徴や背景要因が異なる5つの親子関係タイプが見いだされた。各親子関係タイプの背景要因の検討から、5タイプ中4タイプの親子関係において、特性受容をめぐる葛藤や複雑な感情に向き合うことの困難さ、向き合うことを回避する心理、また子どもの将来についての強い不安感などが見いだされ、親本位の考えや感情に基づく矛盾した養育態度が生じる場合があると考えられた。

思春期発達障害者の包括的支援としての親支援では、そのような矛盾した養育態度に至るまでの親の感情体験や親なりの努力と試行錯誤の結果構築された考えを十分に理解し、親に寄り添った支援を行うなかで、矛盾している養育態度について親の気づきを促し、子どもの自律を支えることのできる安定した親子関係へと成長的变化を促していくことが重要であろうと考えられた。

<キーワード> 発達障害、思春期、親子関係、親支援

【問題と目的】

知的障害を伴わない発達障害者については、その早期発見と支援の取り組みが拡充されてきたが、思春期の支援についてはいまだ十分な実態調査や支援の検討が行われているとはいえない。発達特性は軽減することはあっても消失するものではなく、適応上の問題は思春期まで持続することが多いといえる。とりわけ思春期は新たな発達課題に直面して心理的課題が複雑になるなか、それまでの逆境体験による二次障害も重なり、深刻な行動上の問題や精神症状を呈する場合があることが指摘されている¹⁾²⁾。思春期発達障害者の深刻な不適応を予防し、適応力向上を促すことは、その後の長期的な社会適応につながると考えられることから、具体的な支援アプローチの検討は取り組むべき課題と考えられる。

発達障害者の思春期の支援のためには、特性のアセスメントのみならず環境の影響や二次障害を踏まえた包括的アセスメントが重要とされる³⁾。なかでも親子関係のアセスメントは、生育歴や思春期の親離れ・子離れといった発達課題をめぐる問題を検討する上で重要といえる。発達障害者の親子関係では、子どもの特性の理解や受け入れの

難しさから、親が子どもへの対応に迷い、不安定な親子関係が長期的に続く指摘されている³⁾。また例えば、自閉スペクトラム(AS)特性を持つ者の社会不適応について、環境因が複雑に絡んだ育ち方の影響が指摘されている³⁾。しかし環境としての親子関係が発達障害者の思春期の適応上の問題にどのように影響を与えるのか、また良好な社会適応のためには親子へのどのような支援が必要か、などについて当事者への調査は少ない。そこで本研究では思春期発達障害者とその親に調査を行うことによって、思春期発達障害者の親子関係の特徴やその背景要因について検討を行い、当事者の支援ニーズを踏まえた親支援のあり方を探索的に検討することを目的とした。本調査の目的の詳細は以下である。

- ① 思春期発達障害者の適応状態と親子関係の関連を検討する。
- ② 思春期発達障害者の親子関係の特徴を見出し、タイプ別の分類を試みる。また各親子関係タイプの背景要因や支援ニーズについて検討を行う。
- ③ ①と②の結果を統合し、当事者が抱える問題や支援ニーズを踏まえた効果的な親支援の

あり方を考察する。

【方法】

1. 対象

国立成育医療研究センターこころの診療部に受診している知的障害を伴わない思春期発達障害者とその親 13 組を調査対象とした。WHO による思春期の定義に鑑み、発達障害者の対象年齢を 13 歳～20 歳とした。なお社会的な適応に著しい影響を及ぼす他疾患を併発している者は対象者から除外した。

2. 調査方法

調査は 2017 年 9 月～2018 年 1 月にかけて行った。表 1 に示した質問紙尺度および半構造化インタビューにてデータ収集を行った。本研究が思春期発達障害者の親の支援ニーズを探ることを目的としたことから、本調査は親への調査をメインに行い、発達障害者本人への調査は比較的簡易な質問紙尺度にとどめた。なお本考察をまとめるにあたり、GHQ 精神健康調査票と FIT 家族イメージ法の結果は検討に使用しなかったが、今後さらに本調査結果の質的検討を進めていくことを考えており、その際には検討に含めていく予定である。

表 1 調査内容

親に行った調査
・ 子どもの強さと困難さアンケート (SDQ: Strengths Difficulties Questionnaire)
・ FDT 親子関係診断検査
・ Vineland-II 適応行動尺度
・ GHQ 精神健康調査票
・ FIT 家族イメージ法
・ 育児に関する半構造化インタビュー

本人に行った調査
・ 子どもの強さと困難さアンケート (SDQ: Strengths Difficulties Questionnaire)
・ FDT 親子関係診断検査

3. 調査における倫理的配慮

調査は、国立成育医療研究センター内の倫理委員会の承認を得て実施した。調査対象者には研究目的および意義について文書による説明を行い、十分な理解を得た上で研究協力について文書による同意を得た。対象者の個人情報については匿名化を行い、漏えい、盗難、紛失のないよう管理し、個人が特定される情報は公表しない配慮を行うことで個人情報を保護した。

4. 分析方法

- ① Vineland-II 適応行動尺度 (以下 Vineland-II) および子どもの強さと困難さアンケート (以下 SDQ) の結果をまとめ、思春期発達障害者の適応状況と親子関係の関連について考察した。
- ② 親の回答による FDT 親子関係診断検査 (以下 FDT) の結果を用いて養育態度の特徴を見だし、タイプ別に分類を行った。親用 FDT では、子どもについての親の態度として「無関心」、

「養育不安」、「夫婦間不一致」、「厳しいしつけ」、「達成要求」、「不介入」、「基本的受容」の 7 項目の結果が得られる。それぞれの項目結果の読み取りは FDT の結果判断においてレッドゾーンとされる基準値を踏まえて行ったが、本調査では養育態度の傾向をより広く拾うために、レッドゾーンの基準値を 10 ポイント拡大して読み取りを行った。「基本的受容」の項目において対象者の半数 (7 名) が低い結果であり、それ以外の対象者との間に比較的大きな差が見られたことから、まず対象者を子どもについての「受容ノーマル群」と「受容低群」に分けた。さらに「無関心」、「不介入」、「厳しいしつけ」、「達成要求」といった子どもへの関わり方に関係する項目結果を用いて親の養育態度を分類した。

- ③ 親へのインタビューから得られた語りを抽出し、KJ 法を用いて共通する語りの類型化およびラベル付けを行った。作業の客観性、妥当性を吟味するため研究協力者である他の臨床心理士と作業結果の検討を行った。
- ④ ②で示された親の養育態度分類について、③のインタビューの分析結果を用いて共通する語りや異なる語りなど、その特徴について探索的検討を行い、それぞれ「親子関係タイプ」として特徴を表す名前で示した。また各親子関係タイプが構築される背景要因や支援ニーズについて考察を行った。
- ⑤ ④の考察内容を踏まえて、思春期発達障害者の親支援として有効な支援のあり方を考察した。

【結果および考察】

1. 調査対象者に関する基本情報を表 2 に示した。
2. Vineland-II および SDQ の結果
 - 1) Vineland-II の結果を表 3 に示した。適応行動総合得点は平均 59.5、標準偏差は 8.9 であった。13 名中 11 名において「低い」(−2SD である 70 点以下) 結果であり、思春期発達障害者では知的障害を伴わなくとも適応上の困難は大きいことが示唆された。領域別では「コミュニケーション」および「日常生活スキル」において低さが見られた。この結果から、親からの心理的・社会的な分離が発達課題となる思春期において、発達障害者では社会場面での仲間関係構築や日常生活上の身辺自立の難しさから、親子双方において親離れ・子離れの難しさが生じる可能性があると考えられた。
 - 2) SDQ の結果を表 4 に示した。結果の読み取りは、保護者評価については 13～15 歳の子どもの保護者評価についての日本での標準値を参考に行った。自己評価については日本で

表 2 対象者の基本情報

本人 年齢/学年	性別	両親の職業		備考	初めに専門機関に相談した時の年齢と相談内容 ※発達特性に関する相談以前に相談歴がある場合	発達特性に 関して初めて 専門機関に 相談した時 の年齢	診断名	診断時 年齢	発達特性と 並存する疾 患や症状
		父	母						
① 13歳/中1	男性	研究職	会社員			2~3歳	アスペルガー症候群	9歳	
② 15歳/高2	男性	会社員	パート		2歳(先天性視力障害)	5歳	広汎性発達障害、AD/HD	9歳	先天性視力障害
③ 17歳/高3	女性	医師	保健師			2歳	広汎性発達障害	3歳	
④ 15歳/中3	男性	会社員	会社員		13歳(めまい)	14歳	ASD	14歳	抑うつ症状(不登校)
⑤ 17歳/高2	男性	技術職	技術職			4歳	AD/HD	4歳	
⑥ 20歳/大2	女性	会社員	技術職		小1(育てにくさ)	中3	ASD	18歳	
⑦ 19歳/大2	女性	会社員	パート		中2(起立性障害)	小6	ASD(疑い)	16歳	脳性麻痺
⑧ 15歳/高1	女性	—	自営業	パートナーとの死別により現在は母のみで養育		2歳	アスペルガー症候群	2歳	
⑨ 20歳/高3	男性	自営業	—	パートナーとの別居により現在は父のみで養育		6歳	広汎性発達障害	11歳	
⑩ 17歳/高2	男性	会社員	パート	養育に関する夫婦不一致を経て現在は父が中心に養育		11歳	ASD	11歳	
⑪ 19歳/大2	男性	大学教員	会社員		幼児期(構音障害)	中学生以降	広汎性発達障害	9歳	
⑫ 18歳/高3	男性	会社員	パート			5歳	アスペルガー症候群	5歳	
⑬ 16歳/高1	男性	会社員	看護師			1歳半	広汎性発達障害	12歳	

表 3 Vineland-II 結果

回答者	本人との関係	本人の年齢/学年	過去のウェクスラー式知能検査全検査IQ値 (検査時年齢)	Vineland-II 適応行動総合得点	コミュニケーション	日常生活スキル	社会性
①	母親	13歳/中1	108(11)	53	60	59	58
②	母親	15歳/高2	97(12)	48	61	39	75
③	母親	17歳/高3	137(12)	60	72	76	60
④	母親	15歳/中3	103(14)	61	76	67	66
⑤	母親	17歳/高2	77(9)	66	53	91	81
⑥	母親	20歳/大2	142(18)	52	71	54	61
⑦	母親	19歳/大2	96(19)	72	75	63	101
⑧	母親	15歳/高1	74(8)	66	71	70	83
⑨	父親	20歳/高3	103(16)	73	92	63	85
⑩	母親	17歳/高2	103(11)	56	72	63	62
⑪	母親	19歳/大2	85(13)	44	31	63	71
⑫	母親	18歳/高3	—	65	72	81	69
⑬	母親	16歳/高1	83(11)	57	56	63	81
平均			100.6	59.5	66.3	65.5	73.3
標準偏差				8.9	14.6	12.7	12.5
親子タイプ別			aタイプ	65.3	68.3	74.5	79.0
			bタイプ	54.0	71.5	58.5	61.5
			cタイプ	54.0	66.5	57.5	67.5
			dタイプ	63.0	70.5	64.8	77.0
			eタイプ	57.7	63.7	62.4	73.4

表 4-1 親の回答による SDQ 結果

回答者	本人との関係	総合的困難さ得点	情緒	行為	多動	仲間関係	社会性
①	母親	17	4	3	2	5	3
②	母親	17	2	2	6	3	4
③	母親	22	5	4	4	3	6
④	母親	23	7	3	3	5	5
⑤	母親	15	1	1	5	2	6
⑥	母親	28	10	1	3	8	6
⑦	母親	24	9	1	4	7	3
⑧	母親	29	5	3	6	7	8
⑨	父親	23	4	3	6	3	7
⑩	父親	24	5	3	4	7	5
⑪	母親	28	3	4	9	9	5
⑫	母親	30	1	6	9	7	7
⑬	母親	20	6	2	3	5	4
平均		23.21	4.79	2.64	5.00	5.43	5.50
標準偏差		4.88					
親子タイプ別		aタイプ	20.75				
		bタイプ	28.00				
		cタイプ	19.50				
		dタイプ	23.25				
		eタイプ	30.00				

表 4-2 本人の回答による SDQ 結果

回答者	総合的困難さ得点	情緒	行為	多動	仲間関係	社会性	
①	16	4	2	5	3	2	
②	16	3	2	3	1	7	
③	16	6	1	1	2	6	
④	25	7	4	10	3	1	
⑤	14	4	1	2	1	7	
⑥	35	9	4	10	5	7	
⑦	26	8	1	9	2	6	
⑧	28	7	3	7	3	8	
⑨	29	8	2	6	7	6	
⑩	20	5	3	6	2	4	
⑪	21	3	5	5	1	7	
⑫	27	7	3	4	8	5	
⑬	21	5	1	6	4	5	
平均		22.62	5.85	2.46	5.69	3.23	5.46
標準偏差		6.31	1.99	1.33	2.84	2.24	2.07
親子タイプ別		aタイプ	22.75				
		bタイプ	27.50				
		cタイプ	16.00				
		dタイプ	23.75				
		eタイプ	21.00				

表 5 親子関係タイプ別の特徴と背景要因

a タイプ: 子どもの自主性尊重と自律への支援	
⑤ 受容(ノーマル)/無関心(高)・不介入(高)・達成要求(低) ⑨ 受容(ノーマル)/無関心(高)・不介入(高) ⑬ 受容(ノーマル)/無関心(高)・不介入(高)・達成要求(低)・しつけ(低) ⑫ 受容(ノーマル)/無関心(ノーマル)・不介入(ノーマル) FDT の特徴: 子どもを受容しており、子どもへの関心、介入、達成要求などがいずれも低い(⑤、⑨、⑬)、あるいは関心と介入がどちらも標準程度(⑫)であり、養育態度に矛盾が見られない。	
インタビュー内容から背景要因の検討	
カテゴリ	サブカテゴリからの検討
《これまでの育児における困難感》	⑤⑫⑬が【対応の難しさ】、⑨⑬が【集団不適應】、⑤⑬が【周囲の無理解】、⑨⑬が【パートナーとの不一致】を語っており、他タイプ同様、様々な困難を感じながら育児を行ってきたといえる。 ⑤⑨が【早期から普通と異なるという違和感】を持ったと回答し、また全員が早期に専門機関に相談をしたと回答している(発達に関する相談開始年齢は⑤4歳、⑨6歳、⑫5歳、⑬1歳半)。
《育児支援》	全員が支援リソースとして【専門家への相談】を挙げていることから、早期から子どもの発達特性についての専門的知識を参考に子どもへの対応を行ってきたと考えられる。
《特性の理解と対応》	⑨⑬が【リスク回避としての消極的な特性対応】、⑫⑬が【特性の理解や受け入れが難しかった】、⑨⑫が【理解と感情の矛盾】を語っており、特性の理解や受け入れは容易ではなかったことが推察される。
《思春期の変化》 《思春期の対応》	⑤⑬が子どもの変化に合わせて【親が対応を変えた】と語っている。また⑤では子どもの自立を促すために親がサポートを減らしたこと、⑨では子どもの暴力を伴う反抗に対して第三者の介入を求めたことが語られるなど、親が全て対応しようとせずに【手を引く対応】をしている。思春期の介入状況を概観すると、個別事情から介入せざるを得ない領域はありつつも、全体的に他タイプに比べて【子どもにまかせる】対応が多いといえる。
《将来への思い》	⑤⑨が【適応や自立の心配】を語っているが、社会での孤立を心配するような厳しい認識は全員において見られない。⑤⑨⑬が【親の期待と子どもの進路を分けて考える】発言をしており、親本位の過大な期待を持ちすぎず、子どもの適応状況に応じた認識を持っていると考えられた。また全員において【等身大の自立を望む】ことが語られた。
まとめ: 子どもを受容しており、子どもの年齢に応じて自主性を尊重し、将来の適応に向けて自律を促す養育態度といえる。背景に、早期からの専門家への相談行動や対応の柔軟性が見られる。また将来について社会での孤立といった厳しい認識は見られず、子どもの進路については、親本位の期待や要求と切り離して考えられていることが特徴といえる。	

b タイプ: 親本位の期待と介入	
⑥⑩ 受容(ノーマル)/無関心(ノーマル)・不介入(高)・しつけ(低) FDT の特徴: 子どもを受容しており、介入度合いが低いなど養育態度は a タイプに似ているが、無関心は a タイプほど高くない。つまり介入はしないとするが関心は向けているというように、養育態度はやや矛盾が見られる。	
インタビュー内容から背景要因の検討	
カテゴリ	サブカテゴリからの検討
《これまでの育児における困難感》	⑥は複数の【育児困難感】を語っているが、発達に関する相談の開始年齢は⑥⑩とも比較的遅い(⑥中学3年生、⑩11歳)。育児困難感を感じていたとしても、発達特性についての気づきや、専門的知識や理解に基づいた対応が開始された時期は遅めであったと考えられる。
《育児支援》	⑥⑩ともに【支援者がいなかった/現在いない】と語っており、育児において十分な支援を得られないまま、親のみで試行錯誤してきた期間が長いことが推察される。
《特性の理解と対応》	⑥⑩ともに【特性の理解や受け入れが難しい/難しかった】ことを語っている(⑥「何が何でも学校に行かせないと、思い無理に登校させた。特性を完全に受け入れることは難しく、すごく波がある」、⑩「以前は大学進学を子どもに要求した。子どもはそれが嫌で今の状態になったのかなと反省している」)。 ⑩では【子どもの目線に立つ】と、対応を工夫している一方で、特性による困難の過小評価とも感じられる【特殊な受け入れ】(「特性を気にせず普通の子どもとして扱っている」)が見られる。
《思春期の変化》 《思春期の対応》	⑥⑩とも【親本位の介入】が語られる(⑩「趣味は自由にやらせる条件としてほかで頑張れと伝えている。高校卒業までと割り切って今はすべて面倒を見る」、⑥「私が世話をしないと子どもが困るだろうと思い介入する」)。子どもの将来の適応を見据えて自律を促す支援は行われていない様子が感じられる。
《将来への思い》	⑥⑩とも【将来への厳しい認識】が語られる(⑥「世の中に理解を期待してはいけない。就職して一人で生きていけるか心配」、⑩「自分で克服しないと誰もかばってくれない」)。一方で【親本位の期待】が語られている(⑥「才能を生かして活躍してほしい」、⑩「好き勝手にやって仕事に就いてくれればいい」)。
まとめ: 子どもを受容しており、養育態度は a タイプと似ているが、親の考えや期待に基づく関わりが中心であることから、子どもの適応状況に応じて自律を促す対応が行われていない可能性が考えられる。背景に、特性についての専門的知識に基づいた対応の遅れ、特性の理解と受け入れの困難さ、将来への厳しい認識などが見いだされた。子どもを受容しようとしているが、子どもの特性について向き合うことの困難さから、そこから目を背けて親自身の考えや感情が優先され、結果として子どもの自律を阻む養育態度につながっている可能性が考えられた。	

c タイプ:親の不安に基づく介入	
② 受容(低)／無関心(高)・不介入(低) ③ 受容(低)／無関心(高)・不介入(低)・しつけ(低) FDT の特徴:非受容的であり、無関心の態度を示しているが、強い介入があり、矛盾した養育態度といえる。	
インタビュー内容から背景要因の検討	
カテゴリ	サブカテゴリからの検討
《これまでの育児における困難感》	②③とも【周囲の無理解】があったと語り(②「周囲に理解されないことが一番大きかった」、③「相談した児童相談所の無理解で、私が責められ、精神的苦痛を感じた」、二次的な育児負担があったと考えられる。
《育児支援》	②③とも支援リソースとして【専門家への相談】を挙げている。また②③とも早期から育児困難を感じており、発達特性に関する相談開始年齢は比較的早い(②5歳、③2歳)。早期に専門家に相談して育児の問題解決を図ろうと行動したことが推察される。
《特性の理解と対応》	②③とも【特性対応をした】と語り(②「気が散りやすいので家の中に余計なものを置かないようにした」、③「こだわり行動や指示の伝わりにくさに工夫して対応した」、子どもの特性に応じて積極的に対応方法を探ってきたことがうかがえる。他方で、②では【受け入れの難しさ】(「特性理解が難しかった。今も受け入れたくない。できれば普通と思いたい」)や、【親自身のストレス】(「子どものサポートがすごく大変で、もう投げ出したいと感じる」)が語られていることから、特性の受け入れをめぐる葛藤や育児負担感は少なくないと推察される。
《思春期の変化》 《思春期の対応》	②③とも【子どもは自分で管理できないので介入・管理する】と語り(②「介入しないと遅刻するのでたまたき起こし、登校の準備を手伝う」、③「自分で管理できないので管理している」、ジレンマはありつつも親の義務感に基づいた介入を行っている。また③では【親本位での介入】(「不適切な内容の漫画などはとりあげた」)が語られていることから、思春期という年齢に比して管理や介入はやや強い傾向がうかがえる。
《将来への思い》	②では【将来への厳しい認識】(「世間は無理解なので身辺自立を焦る」)、③では【適応や自立の心配】(「心配ばかりで期待できることがない」)が語られ、将来についての心配や不安は強い様子である。
まとめ:早期からの相談行動や積極的な特性対応を行っており努力型の親といえる。背景に将来についての心配や不安、親としての義務感が見いだされた。一方で、思春期という年齢に比して強い介入や親本位での介入が見られ、子どもの自主性の尊重や自律を促す対応が難しい状態にあると考えられた。介入は義務感に裏付けられており、親自身にはジレンマがあることから、親の心理的負担感の強さも認められ、このことが子どもの「非受容」と関連している可能性が考えられた。	

d タイプ:親本位の期待と支援回避	
⑦ 受容(低)／無関心(高)・不介入(ノーマル)・しつけ(高) ⑧ 受容(低)／無関心(ノーマル)・不介入(高)・しつけ(高)・達成要求(高) ①④ 受容(低)／無関心(高)・不介入(高)・達成要求(高) FDT の特徴:非受容的であり、関心や介入は高くない一方で、しつけや達成要求の度合いが高く、矛盾した養育態度といえる。	
インタビュー内容から背景要因の検討	
カテゴリ	サブカテゴリからの検討
《これまでの育児における困難感》	⑦⑧では他タイプ同様、【対応の難しさ】や【集団不適応】が語られているが、①④は【困難感を否定】している。発達特性に関する相談開始年齢にもばらつきが見られた(①2~3歳、④14歳、⑦小6、⑧2歳)。
《育児支援》	全員が【家族・知人からの支援】を語り、育児において身近な人の支援を得られていたといえる。
《特性の理解と対応》	<ul style="list-style-type: none"> ①④⑧は【リスク回避としての特性対応】にせまられたと語るが、④⑦は【特性の理解や受け入れが難しい／難しかった】(④「治せるものかと思うことはあります。どうしていいかわからない」、⑦「普通に近づけたくて無理にがんばらせた。それが子どもにとって負担になりよくない方向に行った」)と語っている。 ①は【特殊な受け入れ】(「変わっていてよかった。普通だと私が退屈なので」)を語り、背景に受け入れの葛藤があることが推測される。 ⑦⑧は特性を理解しているが【強い諦めによる支援回避】(⑦「今は諦めた部分を自分の楽しみをみつけて解消するようにしている。子どもに関わることはもう疲れてしまった」⑧「自分でやってください」と子どもをほっておいている」)を語っている。 全員において特性の理解や受け入れの葛藤、また特性対応をめぐる葛藤が感じられ、また育児において諦めや疲労感が強く感じられることが特徴といえる。
《思春期の変化》 《思春期の対応》	①⑦が【対応を変えなかった】と語り、子どもの成長に応じた応答性が乏しい、もしくは意図的に子どもに合わせようとしていないことがうかがえる。①④⑧が学習について【介入すると逆効果なので不介入】と否定的なニュアンスでの不介入を語り、①⑦⑧が趣味・交際について【まかせているがやや心配もしている】と語るなど、子どもにまかせることについて親の複雑な感情が見られる。
《将来への思い》	①は【将来への厳しい認識】(「就職せず引きこもることが心配」)を示しつつ、【親本位での期待】(「大事なときはポーンとやると思うので面白い仕事で成功してほしい」)を語り、将来への認識と期待の間に飛躍が感じられる。また⑦⑧は【特性(得意分野)を生かしてほしい】、④は【親の不安から自立を望む】など、子どもへの期待を語るが、特性対応の項目で【強い諦めによる支援の回避】や【特性の理解や受け入れが難しい／難しかった】が語られていることから、将来の適応にむけて自律を促す具体的支援は行われにくい状況と考えられた。
まとめ:子どもについて比較的高い期待を語りつつも、子どもの適応状況に応じて自律を促す対応は行われていない、もしくは支援の回避が見られる。背景に、特性の理解や受け入れの難しさや特性対応をめぐる葛藤、特性受け入れのプロセスでの諦めや疲労感が見られた。親自身がそのような複雑な感情に向き合うことが困難なことから、子どもに向き合う対応が難しくなっている可能性が考えられた。また子どもに向き合うことを回避する態度は、子どもの「非受容」と関連していると考えられた。	

eタイプ:親本位の介入と支援回避	
① 受容(低)／無関心(高)・不介入(ノーマル)・しつけ(低) FDT の特徴:非受容的であり関心は少ないが、介入はある程度行っているとしており、やや矛盾した養育態度といえる。 (このタイプは①の1名のみであり、個性が高くなることは避けられないが、インタビュー内容から検討を行った)	
インタビュー内容から背景要因の検討	
カテゴリ	サブカテゴリからの検討
《これまでの育児における困難感》	【早期から普通と異なるという違和感】があったと語られており、【対応の難しさ】、【母に集中する負担】、【周囲の無理解】など、育児困難感是他タイプと同様に感じていたと考えられる。しかし発達特性についての相談開始時期は中学生と遅めであることから、困難感を感じながらも親のみで工夫して対応を行ってきた期間が長いと推察される。
《特性の理解と対応》	【特性の理解や受け入れが難しい／難しかった】(「特性として割り切れず子どもの得意なことを探した。その中で私がくじけることもあった」と語り、親なりの努力を重ねてきたことが語られている。しかし特性理解を通して【強い諦めによる支援回避】に至ったことが語られている(「子どもは自分と違うのだと頭で分かっていたが、本当は理解できず、見ないことで気にしないようにしている」、「いろいろ頑張ってきたがどうにもならない。見守り切れないので今は子どものことを細かく見ない、考えないようにしている」)。
《思春期の変化》 《思春期の対応》	【子どもの変化にショックを受けた】(「子どもが嘘をつくようになったことがショックだった。子どもの二面性を感じて嫌だと思うようになり、あまり子どもの話を聞かなくなった」と語られており、成長に伴う子どもの変化に対する親の傷つきが見いだされた。一方で対応については、【子どもは自分のできないので介入する】(「子どもに介入するが言ってもダメなのですごくストレス」としつつも、介入における疲労感が語られている。
《将来への思い》	【自立の心配】(「身辺自立をして一人で生きて行けるか心配」)を持っているが、同時に【親の不安から自立を望む】気持ち(「身辺自立ができないと社会参加のスタートに立てないと思ってしまう」)も語られている。
まとめ:タイプ d 同様に特性の理解や受け入れの難しさ、また特性対応をめぐる葛藤が強く、諦めや疲労感、支援の回避が見られる。特性を受け入れることの葛藤が大きく、気持ちの折り合いをつけるために子どもに向き合うことを避け、支援回避につながった経緯が読み取れた。そのため子どもに向き合い、自律を促す対応を行うことは難しくなっている可能性が考えられた。また子どもに向き合うことを回避する態度は、子どもの「非受容」と関連していると考えられた。	

は標準化されたデータがないことから、英国の4～17歳の子どもの自己評価の標準値を参考に行った。その結果、総合的困難さ(Total Difficulties)スコアにおいて保護者評価では全員が臨床域(男児15点以上、女児14点以上)であり、自己評価では9人が臨床域(20点以上)であった。このことから、思春期発達障害者の保護者は、子どもについて情緒面、行為面、仲間関係を含めた総合的な困難さを感じている可能性があると考えられた。

3. インタビューの分析結果

KJ法による分析結果を資料1に示した。各質問カテゴリ(C)における語りを抽出し、サブカテゴリ(SC)として類型化、ラベル付けを行った。

4. 親子関係タイプとその分析

表5に示すように、親の回答によるFDTの結果を用いて対象者の養育態度をa～eのタイプ別に分類した。またインタビューにおける親の語り内容から各タイプの共通点や相違点など、その特徴について探索的に質的分析を行い、各タイプを以下のように名付けた。

- aタイプ:子どもの自主性尊重と自律への支援
- bタイプ:親本位の期待と介入
- cタイプ:親の不安に基づく介入
- dタイプ:親本位の期待と支援回避
- eタイプ:親本位の介入と支援回避

aタイプでは子どもを受容しながらも「無関心」と「不介入」が高く、「達成要求」が低いというように、一貫して子どもへの干渉が少ない比較的

安定した養育態度が見いだされた。青年期の精神内界の発達課題として「第二の分離個体化課題」を唱えたBlos, Pの理論に基づき、思春期の親子関係を対象として行われた先行研究では、「受容」が根底にありながら子どもに干渉し過ぎず拒否もしない親子関係⁴⁾や、家族の凝集性におけるまとまりの低さ⁵⁾が青年の分離個体化過程を促進すると指摘されている。このことから、他年代では否定的な要素となる「無関心」や「不介入」の養育態度も、思春期年代においては適度に親子関係の距離をとるうえで重要なのではないかと考えられた。またaタイプの親の共通点として、早期からの専門家への相談行動、思春期において親が手を引いて子どもにまかせる対応を行っていること、子どもの進路を親の期待と分けて考えることなどが見いだされ、子どもの特性を認識したうえで自主性を尊重し、自律を促す養育態度があると考えられた。

一方でaタイプ以外の4タイプにおいては、それぞれ親本位の考えや期待に基づく矛盾した養育態度が見いだされた。各タイプの親の語りの検討からは、養育におけるストレスや疲労感の蓄積、子どもの特性の受け入れをめぐる葛藤や諦めの感情に向き合いきれずそこから目を背けようとする心理、また子どもの将来についての強い不安感などが存在していることがうかがえた。またこのような親本位の矛盾した養育態度が思春期の子どもへの過度な介入や過大な要求、子どもの自律を促す支援を回避する態度へと至るプロセス

が見いだされた。

Vineland-IIおよびSDQの親子関係タイプ間の比較では、Vineland-IIの結果においてaタイプがその他の4タイプに比べて「適応行動総合得点」、「日常生活スキル」「社会性」の3項目でやや高い数値が見られたものの、その他の項目では大きな差は認められなかった(表3、表4)。そのため親子関係タイプと思春期発達障害者本人の適応行動との関連性について、本調査結果から言及することはできない。また子どもの回答によるFDT結果からも、子どもが感じている親の養育態度に親子関係タイプ間の差は認められなかったことから、各親子関係タイプが相互的な親子関係にどのように関連するかについても確かめることはできなかった。Vineland-IIおよびSDQの結果において親子関係タイプとの関連が見られなかった理由については、各事例の子ども側の認識を含めて、家族関係のより詳細な質的検討が必要と考えるが、本調査では十分な情報を得ておらず検討を行うことはできなかった。

5. 親支援のあり方についての考察

思春期発達障害者では身辺自立や仲間関係の構築において困難が大きいことが示唆されたことから、心理社会的な自立に向けた動きが起これにくく、親にとっても思春期の子離れの難しさが生じやすいと考えられた。

また思春期発達障害者の親では、特性受容をめぐる葛藤や複雑な感情に向き合うことの困難さと、向き合うことを回避する心理などから、親本位の考えや感情に基づく矛盾した養育態度が生じる場合があることが見いだされた。親本位の考えや感情に基づく矛盾した養育態度においては、親本位の期待や介入、そして支援回避というように、子どもの適応状態や年齢に応じた対応ではなく親本位の関わりが見られたことから、このような関わりが親子関係を不安定にし、子どもの適応行動の成長や自律への動きを阻害する可能性はあるのではないかと考える。

さらに各親子関係タイプによって、それぞれ異なる養育態度の特徴と背景要因が見いだされたことから、思春期発達障害者の包括的支援としての親支援は、すべての親に同一の支援や心理教育を行うのみでは奏功することが難しく、親子関係のアセスメントを行ったうえで、親子関係の問題性に応じたアプローチを行うことが必要と考えられる。子どもの思春期の適応を阻害する要因として、親本位の考えや感情に基づく矛盾した親の養育態度が認められる場合、親支援においてはそのような養育態度に至るまでの親の感情体験や親なりの努力と試行錯誤の結果構築された考えを十分に理解し、親に寄り添った支援を行うこと

が必要と思われる。またそのような支援のなかで、矛盾している養育態度について親の気づきを促し、子どもの自律を支えることのできる安定した親子関係へと成長的变化を促していくことが重要であろう。

さいごに、本調査では思春期発達障害者の親子関係について検討を行ったが、各親子関係タイプについて、発達障害者本人の適応行動や親子関係のこじれとの関連性については明らかにすることはできず、結果は親側の認識からの親子関係の知見にとどまる。親子関係とは実際には親子双方の認識やそれぞれの要因が絡み合って構築されるといえるため、本調査結果をそのまま思春期発達障害者の親子関係の全容を把握するために用いることは難しい。本調査結果を臨床における親支援に適用する場合には、個別の事例内容の質的な検討と合わせて用いることが重要である。

【文献】

- 1) Biederman, J., Monuteaux, M. C., Mick, E. et al. (2006). Young adult outcome of attention deficit hyperactivity disorder: a controlled 10-year follow-up study. *Psychological medicine*, 36, 167-179.
- 2) Green, J., Gilchrist, A., Burton, D. et al. (2000). Social and Psychiatric functioning in adolescents with Asperger syndrome compared with conduct disorder. *Journal of Autism Developmental Disorders*, 30(4), 279-293.
- 3) 本田秀夫 (2015). 成人期の自閉スペクトラム. *児童青年精神医学とその近接領域*, 56(3), 322-328.
- 4) 伊藤良子・丸島令子 (2006). 青年期における親の養育態度と第二の分離個体化に関連する精神的健康について—分離個体化期の不安の検討を通して—. *神戸親和女子大学大学院紀要*, 2, 51-62.
- 5) 南野美穂 (2009). 思春期の発達障害児を育てている保護者への支援—愛着の再形成の視点から—. *甲南大学紀要 文学編*, 通号160, 257-267.
- 6) 内藤志美・土屋美千恵 (1995). 大学生における分離個体化と家族機能の関連について. *人間研究*, 31, 111-119.
- 7) 齊藤万比古 (2009). 第一章 発達障害が引き起こす二次障害とは何か. 齊藤万比古 (編). *発達障害が引き起こす二次障害へのケアとサポート*. 学研教育出版, 12-73.

資料1 インタビューの分析結果

C	SC	語り
現在困っていること	生活スキルの問題	②行動のペースが遅い ③起床・準備がスムーズにできない ④お金を自分で管理できない ⑤片付けができない、お金を使い込む ⑥お金遣いが荒い
	計画的行動ができない	⑦身辺自立ができていない ⑧自分の勉強のやり方に固執して成績が伸びない ⑨進みたい進路のために計画的に勉強ができない ⑩計画的に勉強ができない ⑪進学に必要な勉強や行動ができない ⑫将来のビジョンがなく、今のことだけ考えて行動している ⑬進学のための勉強をしない
	情緒・対人関係の問題	⑭人が苦手な学校に行けない ⑮自分に自信がなく、自分はダメだと思っている ⑯友人を作れず、本人も落ち込む ⑰気分が落ち込みが大きい
	衝動的な問題行動 本人に問題意識がない	⑱初めて会う人が苦手など社会性の部分で難しい ⑲衝動的な問題行動があり、他の対処ができない ⑳子ども自身に問題意識がなく、自分で相談行動を起こさない
これまでの育児における困難感	早期から普通と異なるという違和感	㉑睡眠リズムが不安定、こだわり、かんしゃくで対応に困り、病院に相談をした ㉒この子は違うって2歳ころからはっきり分かっていった ㉓普通の子ができることが何でできないのかと疑問だった ㉔幼稚園のころ、集団場面でなじめない様子から普通と違うと感じた ㉕幼稚園くらいから違和感があった
	対応の難しさ	㉖一般的な手法ではうまくいかず、結局一つ一つ声をかけをするしかなかった ㉗特性への対応のほかに、小学校高学年からは大人を困らせようと逃げ回る行動が出て大変だった ㉘夜泣きが多く、ずっと泣いていて大変だった ㉙よく泣くこと、集団不応になったことが大変だった ㉚機嫌が悪いと暴れて抑えられないことが大変だった ㉛意思の疎通の難しさ、だだをこねることへの対応が大変だった ㉜かんしゃくの多さや、言ったことを真に受けしてしまうことから、手間をかけることが必要だった ㉝母に対してのみぐずり、父には出さなかった
	母に集中する負担	㉞不登校になり子どもと二人で過ごす時間が長く大変だった。夫は仕事で帰りが遅かった。 ㉟不登校になって家で暴れ、母への暴力が出るようになった ㊱他人と接することを嫌がり母に固執し、母に対してのみ強くこねることが多かった ㊲感覚過敏や対人関係のトラブルなどから学校不応になった
	集団不応	㊳集団不応になったことが大変だった ㊴小学校は登校できず、家庭で暴れたことが大変だった ㊵教室での単独行動など集団になじめなかった ㊶感情コントロールの難しさから対人関係のトラブルが多かった ㊷考えが修正できず学校の先生の指示に従えなかった ㊸やっぱり周囲に理解されないというのが一番大きかった。夫は理解がなく、夫に話すことはむしろ負担でしかなかった。 ㊹相談した児童相談所の無理解で、私が責められ、精神的苦痛を感じた ㊺ママ友達には分るわけがないと思えばサポートを素直に受け取れなかった。学校から学級を変えるように言われ排除を感じた。
支援者	周囲の無理解	㊻学校から本人らしさを理解されず、マイナスに評価された ㊼周囲に大変さを理解されず一人で大変だった ㊽一見朗らかに見えるので周囲に大変さを理解されなかった ㊾実母に育児を責められた。知らない人に育児を責められて悔しかった。 ㊿子どもの対応について夫婦不一致があり、夫婦関係が悪化した
	パートナーとの不一致	①子どもの対応について夫婦不一致があり、夫婦関係が悪化した ②子どもの対応について夫婦不一致があり難しいと感じた。自分(父)が子どもの面倒を見ることにした。 ③夫に育児を責められた。 ④子どものサポートがすごく大変で、もう投げ出したいと感じる
	親自身のストレス	⑤理想とする子育てとの違いがストレスだった ⑥体罰の悪さから自覚はなくても育児のストレスはあるかもしれない ⑦産んでしまったことの責任を感じて私がどうにかしなくてはと思うけれど、どうにもできるものではない、思い通りにいかない ⑧育児に責任を感じて一生懸命頑張ったが成果や成長が見えず、どうすることもできず苦しかった ⑨子どもの不応は自分の育児を否定されたように衝撃を感じた。私がかんばってもどうにもならないのだと気持ちを切り替えることに時間がかかった。
	困難感を否定	⑩困難感は無かった。夫は子どもの対応に苦労したみたいだけれど。(母親) ⑪子どもの育児で困難感はない。(母親) ⑫幼稚園に入る前は問題を感じていなかった。妻は対応に困っていたようだけれど。(父親) ⑬育児は母親がやるものと思っていた。育児困難感を受け取り次第と思う。(父親)
専門家への相談	家族・知人からの支援	⑭母の実母が手伝いに来てくれた ⑮夫に子どものことを話すことができた。専門的知識を持つママ友達にも相談した。 ⑯苦しい気持ちを夫、母の実母、昔からの友人に相談した。休日は夫が子どもと一緒に見てくれた。 ⑰夫が子どもの対応を一部引き受けてくれ、相談機関に同行してくれた ⑱夫が子どもの世話を手伝ってくれ、実母が子どもの勉強を見てくれた ⑲夫と母の実母が育児を支えてくれた ⑳相談機関が支えになった。常に相談できる場所を持つようになった。 ㉑保育園や療育機関の先生に相談した ㉒育児で気持ちが乱れたとき、主治医の助言に助けられた ㉓保健師、主治医、心理士、OTに相談ができた ㉔主治医に子どもの対応を相談した ㉕主治医の助言を受け、対応がぶれないよう気を付けた ㉖主治医、療育機関のOT、心理士に相談した ㉗幼稚園の先生に相談した ㉘療育センターや通級の先生に相談した
	専門家への相談	㉙夫は特性対応や相談に無理解で、考えの不一致があった。夫に相談することは負担になり、相談しなくなった。 ㉚夫はポジティブでかみ合わず、子どもの将来の心配を夫と共有できない。 ㉛夫は楽観的。子どもの将来の心配を夫と共有できない ㉜夫は話は聞いてくれたが育児は私まかせだった。もっと育児に協力してほしいかった。 ㉝夫は話は聞いてくれたが一緒に対応はしてくれなかった ㉞実母も子どもへの対応がわからず、育児支援を頼むことはできなかった ㉟実家も遠く、育児の支援者は特になかった ㊱育児を相談する相手はいない。育児は暗中模索。(父親) ㊲育児を相談できる人や支援者はいない(父親)
	パートナーからの支援不足	①保育園や学童に預けた。物理的な面で助かった。 ②保育園に預けた
	支援者がいなかった/現在いない	
物理的な育児支援		

特性を受け入れている	①こういうものだから、こうなんだねと理解している。理解することに困難はない。自分がいないときは子どもはしっかりやるんですよ。 ③だいたいこういう子だと思っている
特性対応をした	②気が散りやすいので家の中に余計なものを置かないようにした ③子どものこだわり行動、指示の伝わりにくさに工夫して対応した。今は人間関係の苦手さに対して相談に乗ってサポートしている。 ④小学校の準備は、毎日の作業として全てサポートしていた ⑤指示は伝わりにくいで一つしか言わないようにしている。意校を嫌がる時は無理に行かせないようにした。
リスク回避としての特性対応	①休み時間は子どものやりたいことをやらせてもらえるよう学校に依頼した。子どもは自分のペースなので、言ってもへそを曲げるだけなのでしょうがない。 ②喧嘩になることを避けるために、子どもの状態によっては話し方を工夫したり、時にはそっとしておくようにしている ③慕られるよりはいいと思って全部子どもが落ち着くやり方に合わせることにしました ④諦めている。言ってもやらないので。 ⑤偏食や部屋に閉じこもる行動は無理に変えさせないようにした。子どもに合った環境を重視して中学受験をやめた。自分が頑張ってしまうと、子どもができないときにイライラするだろう、子どもも辛いだろうと思い、流すようにした。流すしかなかったんですけど。 ⑥特性理解が難しかった。今も受け入れたくない。できれば普通と思いたい。
特性の受け入れが難しい/難しかった	⑦特性は小さいころからあったと思うが、発達特性と気づけなかった。治せるものかなと思うことはあります。どうしていいかわかりません。 ⑧何が何でも学校に行かせないと決まっていたと思って無理に登校させた。特性を完全に受け入れることは難しく、すぐく波がある。子どもを十分には理解できない。 ⑨普通に近づけたくて無理にがんばらせた。それが子どもにとって負担になりよくない方向に行った。今も子どもから責められることがある。 ⑩以前は大学に入れと子どもに要求したが、子どもはそれが嫌で今の状態になったのかなと反省している
理解と感情の矛盾	⑪特性として割り切れずあの子の得意なことを探した。その中で私がくじけることもあった。あの子はどうやっても変わらない、子どもは自分とは違うんだと頭でなんとか分かった。でも本当に理解することはできず、見ないことで気にしないようにしている。 ⑫大人になって大変にならないよう、早期療育が大事だと思ってあちこちに相談し、必死に対応した。早く治したいという気持ちがあった。今は逃げない二次障害もあるのだと思うようになった。 ⑬ゆっくり成長すればいいと思いつつ、今の世の中のしくみや就職できるのかと考えると、焦りと不安で矛盾しながら感情的に言ってしまう
子どもの目線に立つ	⑭特性として理解しているが、できない割に理屈ばかりのイライラする ⑮対応を工夫しようと思うが、身辺をきちんとさせたくて怒ってしまうことが私のジレンマ ⑯子どもが身辺自立の必要性を感じていないことに、できないのかしないのか判断できず、腹が立ってしまう ⑰学校行事で親を拒否するので近づかないように気を付けたが、とても悲しかった ⑱スムーズに考えて行動できないことは、子どもも大変だろうと思う ⑲子ども目線、何を考えているのか考えるようにしている。子どもが「怒るのは嫌だ」と言い始めたので怒らざるを得ないようにしている。 ⑳一生守ってあげられないので諦めるしかないと感じて、今は諦めた部分が多いので自分の楽しみをみつけて解消するようにしている。正直、子どもと距離を置きたい。身辺自立はさせたほうが良いと思うが、時間がかかるので家事を頼むのは面倒に感じる。子どもに関することはもう疲れてしまった。
強い諦めによる支援回避	㉑「自分でやってください」という感じで子どもをほっておいている。もう自分で経験させたほうがいいんだと思った。 ㉒いろいろ頑張ってきたがどうにもならないと感じて、今は諦めた部分が多いので自分の楽しみをみつけて解消するようにしている。正直、子どもと距離を置きたい。身辺自立はさせたほうが良いと思うが、時間がかかるので家事を頼むのは面倒に感じる。子どもに関することはもう疲れてしまった。
特殊な受け入れ	㉓「自分でやってください」という感じで子どもをほっておいている。もう自分で経験させたほうがいいんだと思った。 ㉔いろいろ頑張ってきたがどうにもならないと感じて、今は諦めた部分が多いので自分の楽しみをみつけて解消するようにしている。正直、子どもと距離を置きたい。身辺自立はさせたほうが良いと思うが、時間がかかるので家事を頼むのは面倒に感じる。子どもに関することはもう疲れてしまった。
親との心理的距離	㉕「自分でやってください」という感じで子どもをほっておいている。もう自分で経験させたほうがいいんだと思った。 ㉖いろいろ頑張ってきたがどうにもならないと感じて、今は諦めた部分が多いので自分の楽しみをみつけて解消するようにしている。正直、子どもと距離を置きたい。身辺自立はさせたほうが良いと思うが、時間がかかるので家事を頼むのは面倒に感じる。子どもに関することはもう疲れてしまった。
親への反発	㉗「自分でやってください」という感じで子どもをほっておいている。もう自分で経験させたほうがいいんだと思った。 ㉘いろいろ頑張ってきたがどうにもならないと感じて、今は諦めた部分が多いので自分の楽しみをみつけて解消するようにしている。正直、子どもと距離を置きたい。身辺自立はさせたほうが良いと思うが、時間がかかるので家事を頼むのは面倒に感じる。子どもに関することはもう疲れてしまった。
思春期の変化	㉙「自分でやってください」という感じで子どもをほっておいている。もう自分で経験させたほうがいいんだと思った。 ㉚いろいろ頑張ってきたがどうにもならないと感じて、今は諦めた部分が多いので自分の楽しみをみつけて解消するようにしている。正直、子どもと距離を置きたい。身辺自立はさせたほうが良いと思うが、時間がかかるので家事を頼むのは面倒に感じる。子どもに関することはもう疲れてしまった。
子どもに合わせて対応した	㉛「自分でやってください」という感じで子どもをほっておいている。もう自分で経験させたほうがいいんだと思った。 ㉜いろいろ頑張ってきたがどうにもならないと感じて、今は諦めた部分が多いので自分の楽しみをみつけて解消するようにしている。正直、子どもと距離を置きたい。身辺自立はさせたほうが良いと思うが、時間がかかるので家事を頼むのは面倒に感じる。子どもに関することはもう疲れてしまった。
子どもの変化にショックを受けた	㉝「自分でやってください」という感じで子どもをほっておいている。もう自分で経験させたほうがいいんだと思った。 ㉞いろいろ頑張ってきたがどうにもならないと感じて、今は諦めた部分が多いので自分の楽しみをみつけて解消するようにしている。正直、子どもと距離を置きたい。身辺自立はさせたほうが良いと思うが、時間がかかるので家事を頼むのは面倒に感じる。子どもに関することはもう疲れてしまった。
思春期にこだわらず、子どもの状態に合わせて対応	㉟「自分でやってください」という感じで子どもをほっておいている。もう自分で経験させたほうがいいんだと思った。 ㊱いろいろ頑張ってきたがどうにもならないと感じて、今は諦めた部分が多いので自分の楽しみをみつけて解消するようにしている。正直、子どもと距離を置きたい。身辺自立はさせたほうが良いと思うが、時間がかかるので家事を頼むのは面倒に感じる。子どもに関することはもう疲れてしまった。
対応を変えなかった	㊲「自分でやってください」という感じで子どもをほっておいている。もう自分で経験させたほうがいいんだと思った。 ㊳いろいろ頑張ってきたがどうにもならないと感じて、今は諦めた部分が多いので自分の楽しみをみつけて解消するようにしている。正直、子どもと距離を置きたい。身辺自立はさせたほうが良いと思うが、時間がかかるので家事を頼むのは面倒に感じる。子どもに関することはもう疲れてしまった。
手を引く対応	㊴「自分でやってください」という感じで子どもをほっておいている。もう自分で経験させたほうがいいんだと思った。 ㊵いろいろ頑張ってきたがどうにもならないと感じて、今は諦めた部分が多いので自分の楽しみをみつけて解消するようにしている。正直、子どもと距離を置きたい。身辺自立はさせたほうが良いと思うが、時間がかかるので家事を頼むのは面倒に感じる。子どもに関することはもう疲れてしまった。
思春期の変化を感じない	㊶「自分でやってください」という感じで子どもをほっておいている。もう自分で経験させたほうがいいんだと思った。 ㊷いろいろ頑張ってきたがどうにもならないと感じて、今は諦めた部分が多いので自分の楽しみをみつけて解消するようにしている。正直、子どもと距離を置きたい。身辺自立はさせたほうが良いと思うが、時間がかかるので家事を頼むのは面倒に感じる。子どもに関することはもう疲れてしまった。
○身辺自立 -子どもは自分でできないので介入する	㊸「自分でやってください」という感じで子どもをほっておいている。もう自分で経験させたほうがいいんだと思った。 ㊹いろいろ頑張ってきたがどうにもならないと感じて、今は諦めた部分が多いので自分の楽しみをみつけて解消するようにしている。正直、子どもと距離を置きたい。身辺自立はさせたほうが良いと思うが、時間がかかるので家事を頼むのは面倒に感じる。子どもに関することはもう疲れてしまった。
思春期の対応(介入)	㊺「自分でやってください」という感じで子どもをほっておいている。もう自分で経験させたほうがいいんだと思った。 ㊻いろいろ頑張ってきたがどうにもならないと感じて、今は諦めた部分が多いので自分の楽しみをみつけて解消するようにしている。正直、子どもと距離を置きたい。身辺自立はさせたほうが良いと思うが、時間がかかるので家事を頼むのは面倒に感じる。子どもに関することはもう疲れてしまった。
-学校のために介入する	㊼「自分でやってください」という感じで子どもをほっておいている。もう自分で経験させたほうがいいんだと思った。 ㊽いろいろ頑張ってきたがどうにもならないと感じて、今は諦めた部分が多いので自分の楽しみをみつけて解消するようにしている。正直、子どもと距離を置きたい。身辺自立はさせたほうが良いと思うが、時間がかかるので家事を頼むのは面倒に感じる。子どもに関することはもう疲れてしまった。
○金銭管理 -子どもは自分でできないので管理する	㊾「自分でやってください」という感じで子どもをほっておいている。もう自分で経験させたほうがいいんだと思った。 ㊿いろいろ頑張ってきたがどうにもならないと感じて、今は諦めた部分が多いので自分の楽しみをみつけて解消するようにしている。正直、子どもと距離を置きたい。身辺自立はさせたほうが良いと思うが、時間がかかるので家事を頼むのは面倒に感じる。子どもに関することはもう疲れてしまった。
-決まった額の小さい はしない	㊿「自分でやってください」という感じで子どもをほっておいている。もう自分で経験させたほうがいいんだと思った。 ㊿いろいろ頑張ってきたがどうにもならないと感じて、今は諦めた部分が多いので自分の楽しみをみつけて解消するようにしている。正直、子どもと距離を置きたい。身辺自立はさせたほうが良いと思うが、時間がかかるので家事を頼むのは面倒に感じる。子どもに関することはもう疲れてしまった。
○インターネット -子どもは自分で制限できないので管理する	㊿「自分でやってください」という感じで子どもをほっておいている。もう自分で経験させたほうがいいんだと思った。 ㊿いろいろ頑張ってきたがどうにもならないと感じて、今は諦めた部分が多いので自分の楽しみをみつけて解消するようにしている。正直、子どもと距離を置きたい。身辺自立はさせたほうが良いと思うが、時間がかかるので家事を頼むのは面倒に感じる。子どもに関することはもう疲れてしまった。
○学習 -心配で介入する	㊿「自分でやってください」という感じで子どもをほっておいている。もう自分で経験させたほうがいいんだと思った。 ㊿いろいろ頑張ってきたがどうにもならないと感じて、今は諦めた部分が多いので自分の楽しみをみつけて解消するようにしている。正直、子どもと距離を置きたい。身辺自立はさせたほうが良いと思うが、時間がかかるので家事を頼むのは面倒に感じる。子どもに関することはもう疲れてしまった。
○趣味・交際 -親本位の介入	㊿「自分でやってください」という感じで子どもをほっておいている。もう自分で経験させたほうがいいんだと思った。 ㊿いろいろ頑張ってきたがどうにもならないと感じて、今は諦めた部分が多いので自分の楽しみをみつけて解消するようにしている。正直、子どもと距離を置きたい。身辺自立はさせたほうが良いと思うが、時間がかかるので家事を頼むのは面倒に感じる。子どもに関することはもう疲れてしまった。

	<ul style="list-style-type: none"> ①小遣い管理は100%まかせている ②子どもは無駄遣いをしないと思うので、小遣い管理はまかせている。 ③小遣い管理はまかせている ④使すぎないように声をかけるが、細かく干渉せずまかせている ⑤子どもが自分の稼いだお金なので、好きなように使わせている ⑥アルバイトをはじめたから無駄遣いをしなくなったので、今はまかせている ⑦お遣いは飛ぶないので、まかせている ⑧まかせている
○金銭管理 -子どもにまかせて大丈夫だと思う	<ul style="list-style-type: none"> ①アカウント管理以外おむねまかせている ②ゲームを長くやっているとか声をかけるが、おむねまかせている ③子どもは用心深く真面目なので全面的にまかせている ④以前は制限をかけていたが中学生からまかせることにした。きっちりした性格なので大丈夫だと思う。 ⑤真面目なので大丈夫だと思い、高校生になってからまかせている
○インターネット -子どもにまかせて大丈夫だと思う	<ul style="list-style-type: none"> ①親が管理しきれないので高校生から全て解禁にした ②学校の連絡網に必要なので無制限にした ③スマホは管理できないのでまかせている ④自分が同じ年齢のときは親の干渉は嫌だったので、使え方のルールを確認して、あとは全部好きにやらせている ⑤親が押さえつけて犯罪にいくよりはいいので、おむねまかせている ⑥まかせている。成績のことで怒ったことはない。 ⑦やりなよって言うだけでノータッチ ⑧完全にまかせている
-親が管理しきれない	<ul style="list-style-type: none"> ①高校卒業まではうるさく言ったが大学はまかせている ②自分である程度できるのでまかせている ③納得しないとやらないので強制しない ④言うとなんかやらないのでまかせている
-年齢を考慮し不介入	<ul style="list-style-type: none"> ①私が勉強を見たら子どものやり方を許さなくなり怒鳴ってしまうので、ほっておいている ②勉強を見たらうるさく言うってしまうので、自分で気づくことを期待してまかせている ③機嫌を損ねると本当にやらなくなるので、頼まれたら手伝うがまかせている ④安全な仲間関係があるので大丈夫そうと思いまかせている ⑤交友関係は把握している範囲なのでまかせている
○学習 -子どもにまかせて大丈夫だと思う	<ul style="list-style-type: none"> ⑥趣味のイベントと一緒にいこうとして内容を把握しているし、まかせている ⑦アルバイトはだめならクビになるだろうからまかせている ⑧子どもの対人関係スキルが上がったのでまかせるようになった ⑨対人関係の持ち方も成長したのでまかせている ⑩止めてもやめないのでもうまかせている ⑪まかせているけれど、興味の範囲が狭いことを心配している(ゲームばかり) ⑫ひどく危険なことではないと思うのでまかせているが、ゲームばかりだと思 ⑬家に趣味に積極的に空回りが心配だが世界を広げたいのでまかせている。 ⑭共通の趣味なので把握しませているが、親に報告がないことが心配 ⑮仕事は転々とせず、一つ分野に決めて積み上げてほしい ⑯生活できるくらいの仕事についてほしい。すぐに辞めず続けられるような仕事ができるとうい。 ⑰自分で働いて少なくともお給料をもらって生活できるとよい ⑱なんでもいので仕事について自立できればいい ⑲子どもが将来の展望を持つまでは私は背中を押すことはできない。子どもの仕事なので、無理強いても無理だろうし、子どもが好きな仕事を見つけてほしい ⑳普通の進路を選んでほしかったが、この子の普通って違うのかなと思った。私が一生懸命やっても子どもが一生懸命やるわけではない。 ㉑得意分野を生かせる職業で生きていけたらいいと思う。ストレス少なく、好きなことをできるとよい。 ㉒特性が生かされ、好きなことができる道がみつければいい ㉓将来に期待できることがなく心配ばかり。かんしゃく、金銭管理、身辺自立が心配。社会適応のために他人に反抗せず受け止められるようになってほしい。 ㉔大学卒業後の身辺自立が心配。悪意を持った人に引かないか心配。 ㉕社会適応のために相手の言うことを聞くようになってほしい。だまされやすさも心配。 ㉖今のところ金銭管理や身辺自立ができていないので心配 ㉗片付けや、よく考えて行動することができないので、生活ができるか心配 ㉘目標のために計画的行動ができないので、就職後の適応が心配 ㉙身辺自立して一人で生きていけるか心配 ㉚将来自立できるか不安で、就職のために身辺自立をさせたいと焦る ㉛就職して独り立ちしてもらわないと困る。自分の性格を知って自分で対処できるようになってほしい。 ㉜身辺自立をして自分に責任を持ってないと社会参加のスタートに立てないと思ってしまう ㉝怠け者なので就職せず引きこもることが心配 ㉞世間は特性に無理解なので、身辺自立は必要と子どもに話している ㉟理解を世の中に期待してはいけなくて分かっていて、就職して一人で生きていけるか心配。すぐに引きこもりになってしまう不安がある。 ㊱自分で克服しないと誰もかばってくれない。障害がわからないということは一般人にもなれるということ。 ㊲自分のことを嫌いにしないでほしい ㊳職業や友人関係を人と比べて苦むようになることが心配。苦手と向き合っているのか。 ㊴対人関係でストレスを感じやすいので難しそう ㊵将来起こることが心配で私だけが一人で考えている。子ども自身はまだわからないのではないですけど。 ㊶現実はいいものではないが子どもはまだ見えていない ㊷子どもは勉強の必要性を感じていないが、勉強させないといけないと私が焦る ㊸将来の居場所があるのかなど、将来について助言がほしい ㊹将来の行き場がなくなることが心配なので情報を得たい ㊺先が見えないと感じて発達障害者の職業相談窓口に行った。障害を理解して雇用してもらう必要があると思っている。 ㊻年上可愛がられるので、うまくやっているとかなんかと思うことがある ㊼アルバイトはうまくやっている。先輩から可愛がられるので将来は何かやれるのではないかなと思う ㊽面白くないかと思うので、この世界(発達障害の世界)でできることを精一杯やってほしい。子どもは大事なときはポーンとやってくれると思うので、子どもにとって面白い仕事で成功してほしい。 ㊾もともと頭がいいので才能を生かして、特性を持ちながらも活躍してほしい ㊿自分もそうだったので、好き勝手やって仕事に就いてくれればいい。他人に迷惑をかけなければどうなってもいいとポジティブに考えて割り切っている。
-介入すると逆効果なので不介入	
○趣味・交際 -子どもにまかせて大丈夫だと思う	
-まかせているがやや心配もしている	
等身大の自立を望む	
親の期待と本人の進路を分けて理解	
特性(得意分野)を生かしてほしい	
適応や自立の心配	
親の不安から自立を望む	
将来への厳しい認識	
特性(苦手さ)に向き合えるか心配	
親だけが焦る	
将来の情報を得たい	
根拠に基づいた期待	
親本位の期待	

思春期の対応(不介入)

将来への思い